16 平和と公正をすべての人に　17 パートナーシップで目標を達成しよう

「不戦」のゼッケンを背に「平和」への願いを込めて長崎へ

グリーンコープ共生・平和長崎自転車隊
第36回共生・平和自転車隊　第31回共生・平和銀輪隊

2025年、日本は戦後80年を迎えました。しかし、世界では今も戦禍が絶えず、多くの人々が傷つき、生命を奪われている現状があります。

グリーンコープは、「不戦」と「平和」の思いを貫き、何よりも生命が大切だということを次の世代へ伝えていくために、毎年「共生・平和長崎自転車隊」（以下、自転車隊）の取り組みを行っています。

今年は、一日目（8月8日）は全行程を無事に走行しましたが、二日目（8月9日）は、大雨のため自転車での安全な走行ができないと判断し、長崎市の爆心地公園で平和のつどいのみを行いました。雨の中、原爆投下時刻の11時2分に参加者全員で黙とうを捧げ、平和への思いを一つにしました。

自転車隊　1～5班　38人
銀輪隊　1～5班　34人

応援の声が走る力に

「不戦」のゼッケンを背に自転車を走らせます。

休憩ポイントでは、応援する人と安全を確保するスタッフが走る人を迎えます。

自転車隊と銀輪隊全員で大川橋を渡って佐賀県に入りました。

自転車の修理を行うなど、常にスタッフがサポートします。

給水ポイントでしっかり水分補給。熱中症に備えます。

バスの中から応援する声も大きく響きます。

朝6時30分、柳川市を元気いっぱいに出発。

8/8 出発式挨拶

長崎へ向けて

（一部抜粋）

一般社団法人　無名舎こどもの家
代表理事　加藤 裕子さん

この頃世の中では、「何とかファースト」と言いたがる人たちや、その言葉の響きに乗っかる人たちも出てきて、とても不安を感じています。「ファースト」と言う人たちには、それ以外の人はどうでもいいのでしょうか。

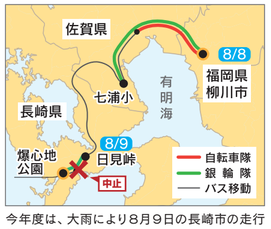
原爆のおかげで戦争が終わったなどと言う人もいますが、原爆の火に焼かれて亡くなった何十万人という人たちは、戦争を終わらせるために死ななければならなかったのでしょうか。歴史的事実も現実も知らない人たちが勝手につくり出したでたらめを、さも本当のように言いふらし、それを信じる人がいるのが本当に恐ろしいと思います。

私たちが信じることはひとつ、命が一番大事、どこの国のどんな人の命も同じように大事、殺されてもいい命などはないのです。だから、私たちは誰が何と言おうと、どんな状況になろうと、不戦を掲げ、戦争がない世界を願い続けていきたいと思います。そのためにこの二日間、長崎まで一緒に走っていきましょう。

共生・平和長崎自転車隊とは

長崎に原爆が投下された日に合わせ、毎年8月8日・9日、福岡県の柳川市から長崎市の爆心地公園までを、「不戦」のゼッケンを背に、平和の大切さを訴えながら自転車で走行します。爆心地公園では「平和のつどい」を開催し、原爆投下時刻に参加者全員で犠牲者に黙とうを捧げます。

走る人、応援する人、支える人など、多くの人々が関わる、グリーンコープの根幹となる平和の取り組みです。



今年度は、大雨により8月9日の長崎市の走行は中止しました。

自転車隊
小学生から大人までの組合員とその家族。約9km～39kmを走る。

銀輪隊
中学生を中心とした組合員の子ども。約67kmを走る。

8/9 平和のつどい

主催：共同体組織委員会

爆心地公園で、参加者全員で黙とうを捧げました。
走行した子どもたちからの、平和へのアピールを紹介します（一部抜粋）。

自転車隊代表
小学6年
稲田 芽生さん

戦争では、たくさんの人が悲しい思いをしました。私たちは絶対に戦争はせずに、みんなが平和に暮らせるように戦争の悲惨さや平和の大切さをみんなに伝えていきます。そして、みんなの笑顔があふれる、そんな素晴らしい地球をつくっていきたいです。

自転車隊代表
小学5年
菊地 果歩さん

どうやったら世界の人みんなが平和になるか考えました。身近にできることは、人に親切にすることだと思いました。親切にされると幸せになり、だれかに親切にしたくなります。一日でも早く、世界の人みんなが幸せになってほしいと願っています。

銀輪隊代表
中学1年
古賀 月悠さん

平和とは、戦いや争いのない穏やかな状態のことだと思います。残念ながら世界を見れば戦いや争いが起きています。しかし、日常生活の中で思いやりのある行動をしたり、平和への関心をもったり、できることはたくさんあります。「銀輪隊」を通して五感で感じた平和の意味やみなさんの想いを、僕なりに後世につなげていきたいです。

被爆体験の講話

8月8日、松本美都恵さん（83歳）から原爆が投下された時の様子について話を聞きました。松本さんは、当時3歳で家族と共に被爆し、幼いながらも辛く悲しかったこと、戦争は絶対にしてはならないという思いを、優しい語り口ながらも強く訴えました。

スライドを使って80年前の被爆体験を語る松本さん。

話を聞いた自転車隊の参加者からは、「とても怖いし、こんなことは二度と起こって欲しくない」という感想が出されました。

子どもたちの未来のために No.205

自然エネルギーでつくる豊かな社会

「脱原発」とは持続可能な社会への第一歩。原発や化石燃料に頼らず、環境への負荷が少ない太陽光、風力、水力、地熱といった自然エネルギーを活用することで、クリーンで安全な電力の供給が可能になります。

ドイツや台湾が脱原発を達成したように、日本も自然資源を活かし、地域に最適なエネルギーシステムを構築することはできるはずです。しかも、地域ごとに小規模発電所が増えることで雇用が生み出されることにもなります。

グリーンコープでんきは、脱原発社会の実現のために、自然エネルギーの発電所作りをすすめるとともに、電力の供給も行っています。それが自然環境を守り、持続可能な社会へつながると考えるからです。

子どもたちの未来を守るために、原発の負の遺産を背負わせることなく、今こそ自然エネルギーを中心とした豊かで安心して暮らせる社会を目指していくべきではないでしょうか。

自然と共生する未来を共につくりましょう。

グリーンコープ共同体組織委員会

原発のない未来をつくろう ひろがれ！私たちの発電所

（一社）グリーンコープでんき

2025年6月の売電量

神在太陽光発電所 111,930kWh（定格出力1,057kW（309世帯相当））	若宮物流センター太陽光発電所 5,092kWh（定格出力47kW（14世帯相当））
平池水上太陽光発電所 154,957kWh（定格出力1,260kW（368世帯相当））	広島物流センター太陽光発電所 4,967kWh（定格出力47kW（14世帯相当））
深年太陽光発電所 155,615kWh（定格出力1,550kW（453世帯相当））	グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所 5,281kWh（定格出力54kW（16世帯相当））
※オンサイトＰＰＡ太陽光発電所 51,468kWh（定格出力285kW（85世帯相当））	グリーン未来ソーラー 33,702kWh（定格出力376kW（110世帯相当））

※グリーンコープ関連の事業所屋根上に設置した太陽光発電設備で発電した電気を、送配電網を通さずに直接その施設で利用しています。

組合員の出資金で原発フリーの電気をつくります

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いを、私たちの力で実現させましょう。

グリーンコープ・グリーン電力出資金
10,649人　1,079,460,000円（2025年7月28日現在）

6/12 共同体組織委員会 共生・平和長崎自転車隊 内部学習会

柳下村塾（無名舎こどもの家）の平和サイクリングがグリーンコープ主催の取り組みへ

～三者の主体が奏でてきたもの～

2025年度の取り組みに先立ち、共同体組織委員会はグリーンコープ共同体出版事業部の松田節子さんを講師に迎え、内部学習会を開催しました。

松田さんは、機関紙「共生の時代」の記事と当時のグリーンコープ連合組織委員会（現・共同体組織委員会）の議事録をもとに、自転車隊の始まりから今日までの取り組みについて話しました。

始まりは、「平和サイクリング」

自転車隊は、グリーンコープ連合初代会長の武田桂二郎さんが開設した柳下村塾託児所（現在の無名舎こどもの家　以下、無名舎）の「平和サイクリング」が原点になっています。無名舎では、小さい頃から体と脳をバランスよく動かし、意志や感情を司る脳幹部を活発にすることが大切だと考え、日常の活動に自転車を取り入れていました。

1984年8月、戦争を賛美する街宣車が街中を走る中、「これはいけない。私たちに何かできることはないのか」と強い思いにかられた武田さんは、平和をアピールしながら自転車で走ることを呼びかけます。これが現在の「共生・平和長崎自転車隊」へとつながっていきます。

無名舎では日常的に、自転車を使った活動を取り入れていました。名手前が、故武田桂二郎さん。（「共生の時代」1988年11月号より）

自転車隊の検討を通してグリーンコープが一つに

1988年、九州・山口の地域生協が集まり、グリーンコープ連合設立。受けて、平和の取り組みは、その年の夏、日本生活協同組合連合会の長崎までのリレー平和行進に連帯する形で取り組み進められてきました。同時に各会員生協では、独自に平和の取り組みが行われていました。その中の一つが、無名舎とその地域の会員生協が一体となって長崎へ向かう「平和サイクリング」でした。

そうした平和活動が続く中、無名舎の「平和サイクリング」をグリーンコープの取り組みにできないかという検討が、当時のグリーンコープ連合組織委員会を中心に行われていました。地域の取り組みをグリーンコープの取り組みにすることは、容易ではありませんでした。その検討は、組合員同士が多くの言葉を交わし合い、認め合い、相互理解しあっていく時間だったとも言えます。

「共生の時代」1992年10月号より

連帯を深め、現在も続く平和への取り組み

自転車隊をグリーンコープの平和の取り組みとするための検討は、小さな生協が集まったばかりのグリーンコープが真の意味で一つになることができた歴史的な出来事だったと言えます。

そして、この取り組みの根幹には、「平和と生命は、たとえどのようなマイナス面を伴おうともそれ自体に価値がある」という武田桂二郎さんの平和論が息づいています。

武田桂二郎さんと無名舎こどもの家

1972年、福岡県柳川市に「柳下村塾」を創設し、託児所を自宅に開設。（現在の（一社）無名舎こどもの家。託児所、小学生教室、中高生の学習塾を併設する。）託児所親の会とともに「たべもの共同会やなかわ」（のちの「共生クラブ生協」。グリーンコープ生協ふくおかの前身生協の一つ）を立ち上げた。1994年逝去。

※福岡県内の生協の連合体。グリーンコープ生協ふくおかの前身生協。